

**令和 7 年度
伊勢市議会「高校生との意見交換会」記録**

伊勢市議会

■日時

第1回 令和7年8月 7日（木）午後1時30分～

第2回 令和7年8月20日（水）午後1時30分～

■高校生参加者

第1回 令和7年8月 7日（木）

1. 宇治山田商業高等学校

勢力ゆうさん、平野茉音さん、山下大晴さん、今井汰樹さん、三宅咲良さん

2. 皇學館高等学校

中野友葵さん、小釣愛音さん、太田彩音さん

3. 伊勢まなび高等学校

小掠柊也さん、伊藤琉楓さん

第2回 令和7年8月20日（水）

1. 伊勢工業高等学校

中村陸人さん、吉永桃菜さん

2. 伊勢学園高等学校

石神陽向さん、森下結愛さん、松井琉那さん

■内容

開会あいさつ、スライド資料説明



司会：久保広報広聴検討分科会副会長



あいさつ：浜口議長



資料説明：上村広報広聴検討分科会会長



資料 「議会の役割と仕組みについて」
「主権者教育について」

施設見学



意見交換会

■テーマ「10年後（2035年）の伊勢市にのぞむこと」（8月7日）



宇治山田商業高等学校



皇學館高等学校、伊勢まなび高等学校

■テーマ「伊勢市の自慢できるところ」（8月20日）



伊勢工業高等学校



伊勢学園高等学校

意見報告会（第1回：8月7日）

■テーマ「10年後（2035年）の伊勢市にのぞむこと」



進行：辻副議長



意見報告会

宇治山田商業高等学校の意見発表

宇治山田商業高等学校です。よろしくお願いします。

それでは、私たちの考えを発表します。10年後の伊勢市の姿を想像し、私たちは、たくさんの人々が来てくれるまちになってほしいと考えました。今、伊勢市は少子高齢化に伴い、過疎化の一途をたどっています。10年後にはもしかしたら、伝統的な文化や長年続いてきた地域の伝統などが廃れ、私たちの好きな伊勢市でなくなっているかもしれません。そこで私たちは10年後の伊勢市をよりよくするための3つのプランを考えました。

1つ目は、県外の方々の誘致です。豊富な海の幸、山の幸があったり、伊勢神宮など伝統的な建造物が伊勢の魅力であると私たちは考えます。そこで地元の食材を活用したグルメフェスをおかげ横丁で開催したり、交通アクセスをもっと改善することでより一層、観光客が増えることが見込まれます。伊勢ならではの食材や建造物を活用し、伊勢でしかできない体験をもっと他県の方々にしてもらい、魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えています。議員の方からいただいたアドバイスを参考に、たくさんの人が集まる場所で伊勢独自のお餅や郷土料理を作る体験などをしてもらい、伊勢に来てもらうきっかけをつくっていったらいいと思います。

2つ目は、外国人観光客の誘致です。インバウンド消費を増やし、経済を回すことで財政的な活性化を目指します。また、伊勢市の良いところや特色を日本にとどまらず海外に伝えることで、伝統や文化を国際的に広げられることができます。そのために、文字だけでなく、絵や歴史の解説を取り入れた分かりやすいデジタルマップを用いて、伊勢神宮の歴史や文化を広げるワークショップを開催したり、伊勢の四季を生かした環境コンテンツを展開したいと考えます。

最後に、いつでも帰ってこられるまち、伊勢です。多くの高校生が県外へ進学し、そのまま他県に就職するケースが多く、地元に戻ってこないという現状が私たちの周りで多く見受けられます。そこで私たちは、伝統的なプロジェクトを進めている地元企業に補助金を出し、企業の発展の後押し、伊勢で起業をするための若者の応援や教育や子育ての環境の整備を充実させることにより、伊勢市の若者がいつでも帰ってこられるような体制を作りたいです。

以上3つを進め、私たちが愛する伊勢市を10年後さらに発展させ、たくさんの人々から愛されるまちにしていきたいと私たちは強く願っています。

先ほどの意見交換会では、議員の方から私たちの意見を広げてもらえるようなアドバイスをいただきました。市民の代表として私たちの思いが実現されるよう頑張りたいと思います。

以上で、私たちの発表を終わります。



皇學館高等学校の意見発表

皇學館高等学校の2年生、中野・小釣・太田です。どうぞよろしくお願いいたします。

私たちは10年後、27歳になっています。27歳の自分は何をしているか、何をしたいのかと考えました。3名とも四年制大学を卒業して、自分の夢である職業に就いて、働いて5年間経過している予定です。しかし、正規採用か期限付きの採用か不明です。三重県の南勢地区で学ぶ環境や働く場所がなければ、県外にいるかもしれません。また、すでに結婚して家庭をもっているかどうか、3名でそれぞれ異なる予定です。そんな3名に共通すると思われる10年後の課題を話し合いました。

1点目、伊勢市周辺で暮らし、自分の夢である職業に就けているか。また、起業ができているか。2点目、仕事と家庭生活が両立できるか不安という2点に大きく集約できました。

そこで私たちが10年後の伊勢市に期待することとして、1点目、これから大学生・社会人となる中高生が伊勢市で就業しようと思える働き口があること。2点目、男女が協力してがんばって働きながら、安心して家庭生活を築くことができる環境が整っていて欲しいということ述べたいと思います。

1については、RESAS（リーサス）地域経済分析システムで、2023年の新卒者就職・進学分析をしてみました。資料を見てください。三重県全体のデータしかありませんが、新卒者地元就職率は男女総数で69.80%です。しかし、これを男女別に分け、かつ他地域への就職流出割合を比較してみると結果に違いが出ています。女性の他地域への就職率は35.48%で、純流入実数はマイナス6千人でした。一方男性の他地域への就職率は17.48%で、純流入はプラス2千人となっているので、この違いには注目したいと思います。

2については、現在、男性の育児休業取得が進められていますが、実際には小規模な会社やシングルファザーなどの環境はどうなのでしょう。私たちは、伊勢市では必ず男性も産休・育休を取らなければならないという条例を設定して、期間を柔軟に選べるような

工夫や会社への育児休業給付金などを整備するなどをして、もう一歩前進してはどうかと考えました。

他にも、伊勢市が企業や学校と協力して夜間の共同託児所を開設するなどして、シングルファザーやマザーが時間を気にせず、安心して子育てできる環境を作ることも多様な働き方につながるのではないかと考えました。子どもは子ども同士で遊べて、親は親同士で話したり相談できる場所が増えれば、若い世代によって、伊勢市近辺で働く場所が自然に作られていくのではないかと思います。

しかし、これは3人で考えただけの意見なので、年齢層が違ったり、同級生でも10年後の期待は違ったり、様々な視点があると思い、アンケートや聞き取り調査をしました。

40代の保護者数名に聞き取りをしました。現在の伊勢市の課題として、駅前の開発を挙げる人がいました。伊勢市駅周辺の利便性を高めて欲しいという意見は、同級生からもよく聞きます。宇治山田駅構内に比べて伊勢市駅構内では、店舗や待合室などが少なく、乗換時間を過ごすことが難しいという意見です。JRと近鉄が協力して伊勢市駅自体の利便性を高め、伊勢市駅を目的に観光に来るぐらいの魅力的なスポットになったら、8年後の式年遷宮後に向けて伊勢市を訪れる観光客にとってもよいのではないかと思います。

同級生からのアンケートは88名に答えてもらうことができました。「10年後に、伊勢市がどうあってほしいか想像しながら、今の伊勢市と比較し、意見を考えてください。」という内容で質問をしました。伊勢市の観光について考える授業の後にアンケートをしたので、多くの意見が今よりも観光客が増えて欲しいという内容でした。たくさんの文章回答を大きく傾向でまとめてみました。アンケート結果については資料のとおりです。全て読み上げることはしませんが、観光の視点、交通面の課題、若者と暮らしの視点、自然や文化保全の視点から多くの意見をもらうことができました。今の伊勢市の街並みに満足している一方、もっと経済的に活気あふれてほしいと考えることや観光客にもっと来てもらいたいけれど、治安や交通面で不便が出てくるのではないかという、様々な見方があることが分かりました。

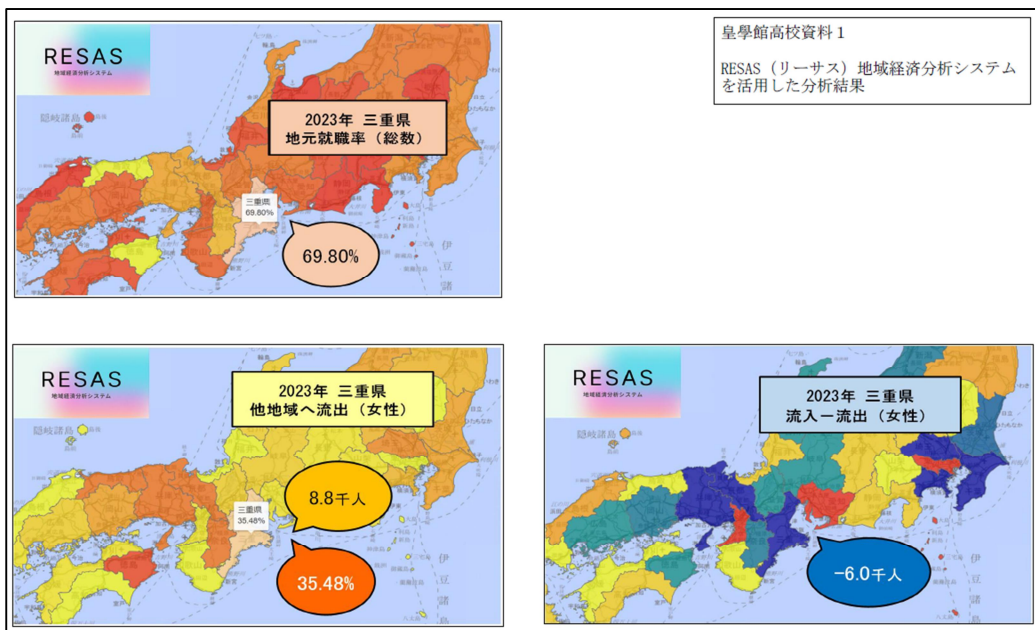
先ほどの意見交換会では、参加された議員の方々に、これら全てに目を通していただき、私たち皇学館高校のみんなの意見を知ってもらいました。将来の伊勢市のまちづくりを考えていくうえで、参考にしてほしいと思います。

他県からみてもうらやましいような、みんなが暮らしたいなと思えるまちづくりが、私たちが考える伊勢市への期待です。

以上で終わります。



・皇學館高等学校資料 1



・皇學館高等学校資料 2

皇學館高等学校 第2学年 アンケート結果（まとめ）… 88名から回収

- ◎ 観光の視点 … 現在と同じように観光客にあふれる街であってほしい
 - ・ 障がい者支援（点字、道路舗装）などを増やし、誰もが困らない観光地をめざす
 - ・ 外国人観光客の受け入れ態勢を加速させる
 - ・ 観光客が増える中、交通手段が不便 → 交通の視点へ
 - ・ 駅前観光客向けのカフェしかなくて、ファミレスとか学生向けのたまり場がない
- ◎ 交通の課題 … 2つの駅があるが、電車・バスの本数が少ない
 - ・ 観光客が多すぎて日常的にバスに乗れないことがある
 - ・ 自転車や歩行者に配慮があまりない道路ばかり
 - ・ 宇治山田駅と伊勢市駅の構内の充実と駅前の再開発
 - ・ 2つの駅を地下道でつなげたらよい
 - ・ 高齢化が進行するが自動車が必要で免許返納は難しい
 - ・ 市内のバスやタクシーなどの利便性を高める必要がある
 - ・ それなりの車通りや人通りがあるので、交通事故を防ぐ対策があるとよい
- ◎ 若者・暮らしの視点 … 活気があふれていてほしい
 - ・ 最低賃金があがってほしい
 - ・ せめて今くらいの賑やかさは保っていてほしい
 - ・ 人口減少傾向にあるので、若者が住みやすい場所になってほしい
 - ・ 遊べる場所・大型商業施設・映画館などがほしい
 - ・ 年齢関係なく住みやすい都市であってほしい
 - ・ 人口が増えて、経済的に優れている街になってほしい
 - ・ 他市から伊勢市に引っ越す人を増やす方法を考えることが必要
 - ・ 全自動の乗り物を導入して開発を進めながら、古いもの（建物や伊勢の文化）を捨てずに伝統を残してほしいので、SDGsのことをしっかり考えるべき
 - ・ 治安のよい町であってほしい
 - ・ 学生の自習室みたいなのが作れないか
 - ・ 伊勢神宮の印象が強いので、他の何か・他の魅力があってもよいのでは？

- ・ 商店街や町の中心部の空き店舗化・高齢化が気になる
- ・ 新しい産業やおしゃれなお店ができてほしい
- ・ 歴史ある観光地として知られているが、若い世代が楽しめる場所や活動は少ない

◎ 自然や文化の視点 … 歴史や伝統、自然の豊かさを大切にしたい

- ・ 現在の伊勢市は建物が密集しているわけでもなく不便でもない。町並みはそのままがよい。
- ・ 川・海・空気がきれいなので、自然とゆっくり過ごせる環境はそのままがよい
- ・ 伝統的なお祭り（お木曳や遷宮など）がもっと盛り上がってほしい
- ・ 伊勢市はもっと歴史や伝統を大切にしていくなさと思う
- ・ 景観保全と設備の充実・発展を両立してほしい
- ・ 観光客が増えるのとともにゴミのポイ捨てなどが増えていると思う

伊勢まなび高等学校の意見発表

伊勢まなび高等学校です。よろしくお願いします。

それでは、私たちの考えを発表します。10年後の伊勢市に望むことは3点あります。

1点目は防災の観点からです。30年以内に80%の確率で南海トラフ巨大地震が発生すると言われています。そんな中、伊勢市は海に面していますので、津波の被害が大きくなるだろうと予想しています。当然避難所には、伊勢市の各小中学校体育館が使用されと考えます。エアコンが設置されていなければ、夏ならば熱中症、冬ならば凍傷になる可能性が高いです。小中学校の体育館へのエアコン設置をしていただきたいと思います。そのようにすることによって、災害関連死を防げて減災に繋がると考えます。

2点目は、魅力的なまちになるためにも、2002年から約10年間かけて、サンアリーナに植樹された1,000本の冬桜を守って貰いたいとの意見が本校でありました。

3点目は、伊勢市の小中学生が安心して登下校できるように、道の整備を県や国に強く働きかけてほしいということです。近年の自転車取り締まりの強化によって、自転車が車道を走行することが求められていると思います。しかし、車道に自転車が通れる程の幅がない道路が多いのが現状です。そのため、自転車も安心して通れるよう整備していただきたいです。

これら3点について、先ほどの意見交換会で話し合いました。

1点目の避難所としての伊勢市の各小中学校体育館の使用についてですが、部活動で使うこともあり、熱中症対策という視点でも大切なことである。しかし、エアコンの設置には多額の費用が必要であり、できるところから徐々に取り付けて進めていく予定というお話を伺いました。

2点目、サンアリーナの冬桜についてですが、ボランティアの方々が10年以上前に頑張って植えていただき、今は市が管理しているようです。しかし、植えられている場所の土壌があまりよくないようです。市民のいい散歩コースにもなっているので、今後もできることは支援していきたいというお話を伺いました。

3点目の登下校時の道路整備についてですが、私たち伊勢まなび高校の周辺には多くの学校が密集しており、駅から自転車で通う生徒も多いことから、道路の整備が実現されればいいのですが、道路整備には、現状の道幅が限られていることや、また国、県、警察との協議が必要となってくることから、すぐに実現することは難しいようです。それも大切

ですが、来年度から道路交通法が改正され、私たち16歳以上の高校生に対しても違反に対する罰則が大幅に強化されると聞きました。そのため、高校生も罰金を払わなくて済むよう、きちっと交通ルールを守ってほしいというお話でした。また、この問題は私たち高校生だけではなく、高年齢の方々の協力も大事というお話も伺いました。

以上で、私たちの発表を終わります。



意見報告会（第2回：8月20日）

■テーマ「伊勢市の自慢できるところ」

伊勢工業高等学校の意見発表

伊勢工業高等学校です。よろしくお願いします。

それでは、私たちの考えを発表します。私たちが考える、伊勢市の自慢できるところは、豊かな自然と住みやすい環境だと思います。伊勢市は、自然と住みやすい環境がバランスよく共存していて、全国に誇れるまちだと思います。まず、五十鈴川や宮川、朝熊山など、美しい自然が身近にあります。自然が多く、四季の変化を感じながら生活できるのは、伊勢市ならではの魅力だと思います。

また、伊勢市は、歴史と文化が息づくまちでもあります。伊勢神宮やおかげ横丁は、国内外から多くの観光客が訪れる名所であり、地域に活気を与えてくれると思います。私たち高校生は、まだ自動車の免許を持っていないので、学校や駅からは徒歩や自転車で移動することが多いのですが、商業施設や医療機関も整っているので、必要なものをすぐに手に入れられることができます。飲食店も多く、生活用品を扱う店も充実しているので、日常生活に困ることはありません。23号線の近くは特に栄えているので、買い物や食事をするのに便利なエリアだと思います。

一方で、中心部から少し離れると、自然豊かな環境が広がっています。公園も多く、子どもたちがのびのびと遊べる場所がたくさんあります。こうした自然と都市機能のバランスが、伊勢市の住みやすいところだと思います。

また、高校同士が近いため、部活動やイベントを通じた交流も多く、高校生にとっても成長しやすい環境が整っています。

このように、伊勢市は自然、文化、利便性、人の温かさが融合した、誰もが住みやすいまちです。

先ほどの意見交換会では、参加された議員の方々に私たちの意見を聞いていただき、少しずつでよいので、伊勢市との関りを持ち続けてほしいとのお話を伺うことができました。私たちの思う、誰もが住みやすいまち伊勢市であり続けるよう、市民の代表として頑張りたいと思います。

以上で、私たちの発表を終わります。



伊勢学園高等学校の意見発表

伊勢学園高等学校です。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、私たちの考えを発表させていただきます。

私たちは、観光でたくさんの方が訪れる伊勢神宮が素晴らしいのではないかと考えました。伊勢には内宮と外宮があり、それぞれ内宮（皇大神宮）は2,000年の歴史が、外宮（豊受大神宮）は1,500年の歴史があります。また、文献によると神宮は125社の集合体であり、14所の別宮、43所の摂社、24所の末社、42所の所管社が存在しています。さらに、皇室の御祖先であり、私たち日本人の総氏神である、天照大御神様をおまつりする全国神社の中心となっています。社殿は、唯一神明造といわれる建て方をしており、この建て方は、日本古来の建築様式を現在に受け継いでいます。そして20年に一度、遷宮が行われます。最初に宇治橋がつくられ、それを記念して三世代の「渡り始め」が行われます。平成21年の「渡り始め」にも全国から選ばれた御夫婦が最初に渡られたそうです。また、神宮奉納花火大会もこの「渡り始め」がきっかけとなり、行われるようになったようです。

その後、「お白石持行事」が行われるのですが、皇大神宮と豊受大神宮にそれぞれ「お白石」を奉納します。これらの行事は、伊勢市では大変な行事であり、各町が協力しながらそれぞれの場所に運ぶという普段は関わることのない、地域の人たちと交流できる貴重な機会となっています。

しかし、現在の伊勢市の人口は、年々減少傾向にあるかと思います。そうすると、これから実施されていく「お木曳」に関しても人口減少のあおりを受けて、「お木曳」が実施されない状況に陥るかもしれません。この人口の減少をどのようにくい止めることができるのかということが重要になるかと思います。現在伊勢市の人口は、119,387人です。人口減少化傾向はこれからも進んでいき、2050年には8万人を少し上回ることになるかと推計されています。担当の先生の周りも人口が少なくなり、20年前には200軒ほどあった「お木曳」の参加軒数が100軒ほどしか集まっていない状況だそうです。新しい人も増えているかと思いますが、人口の減少には追いついていません。これからの人口減少を

防ぐためには、周りの地域からいかにして人口を増やしていくのかを考えるべきなのではないでしょうか。

伊勢市の自慢できる「お木曳」などの伝統行事を守っていくためにも、人口減少対策が急務だと思います。

また、昨年も主権者教育を先生方にやっていただいたように、選挙権年齢が18歳に引き下げられたことによって、もっともっと政治や社会が身近に考えられるようになっていかなければいけないと思っています。私たちもこれから先の人口減少についてどうすればいいのかと考えます。私たち高校生は、伊勢市内で行われていることはそれほど関心がないかもしれません。でも、自分たちが関心を持って取り組んでいかないとますます若者との溝が大きくなってしまいます。このことを踏まえて、人口減少の対策を考えていかなければいけないと思っています。

以上で、私たちの発表を終わります。



閉会あいさつ、感想



あいさつ、感想：上村広報広聴検討分科会会長

集合写真



参加者集合写真（8月7日）



参加者集合写真（8月20日）